

平成 28 年度岩手県中部保健所運営協議会会議録

- 日時：平成 29 年 2 月 15 日（水）18 時 30 分～20 時 00 分
- 場所：北上市芳町 2-8 北上地区合同庁舎 2 階大会議室
- 出席者：別添委員名簿のとおり 30 名（委員 22 名（うち代理 5 名）、事務局 8 名）
- 傍聴人：1 名（報道機関 1 名）
- 会議内容

1 開会（千葉次長）

〈会議成立報告：委員 24 名中 22 名（うち代理 5 名）の出席〉

2 挨拶（柳原保健所長）

委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ本協議会に御出席いただき、また、常日頃、当保健所の運営に御理解と御協力をいただいていることに御礼を申し上げたいと思います。

さて、この運営協議会ですが、例年、今の時期に開催させていただいております。しかしながら、これまでの事務局の説明のできる内容等を踏まえた上で、来年度からは、年度前半に運営協議会を開催させていただきたいと思っております。それによりまして、前年度の事業実績を御報告申し上げるとともに、新年度の運営方針等について併せて御説明申し上げ、それを中心として皆様方から運営全般に関する御意見をいただくことができると考えているところです。

そうしたことも踏まえまして、今年度の運営協議会におきましては、保健所の医療・保健・衛生に関わる事業の中からいくつか現段階の状況について御報告申し上げ、これらの以外の事項も含めて皆様方から御意見をいただければと思っております。本日は、よろしく願いいたします。

3 委員紹介（千葉次長）

別添委員名簿により紹介（読上げ省略）

4 議事

(1) 平成 28 年度中部保健所の主な事業の取組等について

資料No.1 からNo.3 に基づき、事務局から説明の後、次のとおり協議等が行われた。

（説明者：次第の項目順に平賀管理福祉課長、中沢保健課長、玉田環境衛生課長）

議長

説明が終わりましたので、委員の皆様方から御発言をいただきたいと思います。北上警察署さんから順番に 1～2 点、2 分位で御質問あるいは御意見を承れればと思います。全ての委員の皆様方の発言が終わってから事務局から回答をお願いしたいと思います。それではよろしく願いします。

（北上警察署長 津田委員代理 生活安全課長及川氏）

警察業務の取り扱う中で、保健所さんとの協力体制、連携というものが必要不可欠な状態になっております。たとえば暴れがある統合失調症の方でありますとか、アルコールの中毒依存症患者の方のトラブル等、日々そういった事案に対応しております。警察では法令に基づいて、だいたい 24 時間以内で動くということが可能ではありますが、それを超えてということがなかなか困難な状態でありまして、そういった案件がある都度、保健師さんのほうに御相談をしておりますし、適切な指導助言をいただいておりますし、また、医療機関の方で適切に繋ぎの作業等もしていただいております。今後、引き続いて良好な協力体制と連携というものに努めていきたいと思っておりますし、御協力をお願い

したいと思っておりますのでよろしくお願いします。」

(花巻消防本部消防長 照井委員代理 次長兼警防課長畠山氏)

私の方からは意見ということではございませんが、参考までに、国体開催期間中に緊急出動したということをお話ししたいと思います。岩手国体においての競技中の事故につきましては、緊急出動は全体で7件でございました。競技種目はバレーボール女子とサッカー男子の試合中で怪我をしたということと、あとは観戦中に具合を悪くしたというものでございました。関係行事の中で、一つ大変残念な事故がございましたが、全体では7件、競技中の事故は6件ということでございます。それについて医療関係の皆様には救急隊の活動中トラブルもなく、スムーズな患者の受入れ態勢をいただきました。本当にありがとうございました。

(北上市社会福祉協議会長 菊池委員)

地域包括ケアシステムの構築に関わって、2015年の4月に介護保険法が改定になり、要支援1、2などの訪問介護と要介護の事業を市町村に移すということになって、2017年度からすべて実施ということになっている。いわゆる新しい総合事業といわれるものですが、市からはまだ具体的な実施計画は示されていないですが、私ども社協が求める方策としましては、当社協の次の事業、市の委託ですが、その活用を望んでいます。ひとつは、地域資源となっている、介護予防、生きがいづくりのふれあいデイサービス事業の活用ということ。それから、生活支援コーディネーターとしての、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の活用。認知症総合事業への小地域ネットワーク事業や福祉協力員事業の活用。各種ボランティア事業のボランティアの活用。また、東日本大震災広域避難者の複数の生活課題への対応。そういったことについて、市と連携、協力をする中で、事業の活用を図っていただければと考えています。

(北上市食生活改善推進委員協議会長 阿部委員)

食改協は、脳卒中ワースト1ということで、減塩の取組を一生懸命やっております。「突撃隣の味噌汁」というのを3年計画でやりました。今年度で終わりですが、まだいろいろなところで続けていきたいなとは思っています。私たち本当にいろいろな所に行き、学校やショッピングセンターでの減塩活動などいろいろやっています。やはり皆さん減塩は大事だなとは言いますが、なかなか隣の味噌汁に行っても、少し薄めてきたような感じがするところや、何かごまかすところもあったりで、持ってくる間に、ちょっとあれ？と思うところもあったのですが、やはり関心は強いです。それと、寸劇をやりました。すごく楽しくできたのですが、また今年度もやる予定はあるのでしょうか。皆で今年は頑張りたいと思っておりますので、やっていただければ頑張ります。

あとは国体ですね。国体は、私達も最初はおもてなしに300~500食と聞いていて、すごく大変だな、と思いました。当日しか作ってはダメなので、早いところは、代表者の方は朝4時や5時に来てやっていた。300~500食あつという間になくなったので、すごく楽しくできて、皆さん楽しめたと言っております。ただ、全員が会場に行けなかったのが、行きたかったと言っている方々もいた。だからといって自分達で競技を見に行くこともしなかったんですが、国体をすごく楽しくできた。ありがとうございました。

(遠野市保健推進委員協議会長 宮守委員)

私の方からは、特定健診や、各種がん検診の受診率を上げようということで、委員が一生懸命頑張っておりますが、どうやったら受診率を上げて、早期発見・早期治療に結び付けられるかということで、なんとなく限界を感じております。市のほうにもいろいろお願いをして、各地区センターごとに担当する保健師を決めていただき、保健師の方が入って、いろいろな健康講座をとりあげていただいたり、この前は、地区センターの区長会に入っ

ていき、何とか保健推進委員に協力をして行政区長さんも健康づくりのために力添えをしてほしいと、男性の力も引きずり込んでいくように頑張っております。先ほど発表があったように、若い人の健診率が低いということをどのようにして高めていったらいいのかは課題なので、まずは家庭、身の回りの若者、御主人、息子、そのような方々を健診に連れてくるということを中心にやっていきたい。2年ごとに委員が変わるという状況がうちの地区ではあるので、それを何とか活動として継続をしていくような形にしていきたいと思っております。まず、市のほうでいろいろなお金をかけて、腎機能検査の項目を増やしていただいたりしているのを、地区でなぜ少ない財政の中からこの項目を増やしてやってきているのかを勉強したり、とにかく健康についての意識付けを図る、ということ頑張っています。そのために、地区の集会に必ず保健推進委員からという項目を設けていただいて、何もなくても話す、なんとかひねり出してでも話すということをやっております。本当に遅々として進まないかも分かりませんが、頑張りたいと思います。後で、うちの市の部長さんもいらしているが、自分の健康状態を知ることと、積極的に体力づくりをしていくという両面から健康づくりに関わってまいりたいと思っております。

(岩手県食品衛生協会花巻支会長 松田委員)

先ほどの御報告の中で、岩手国体で食中毒の事件、事故がゼロだったということで、大変お疲れ様でございました。少しずれるかもしれませんが、今我々が食を取り扱うという立場からすれば、冬場も起きるとするのはノロウイルスであろうかと思えます。ノロウイルスも起こった場合のその後の処理なんですね。我々、いまどのくらいまでウイルスを持った人が来て、そこで発症すれば、その後の処理という方法しかないですが、それに対するワクチンなどそういったものが徐々に研究されつつあるとちらっとお聞きしたことがございまして、その点の進み具合程度をお聞きしたいなと思っております。

(介護老人施設ゆうゆうの里施設長 中村委員)

私の職場はここに書いてあるとおり、医療職の人材確保が職場でも逼迫してるんですが、人材確保ということはイコール人材育成ということなので、これは今後の取組だとは思いますが、どういった人材を育成するかといたら、今までの場合は医療は医療、介護は介護、別ですよ。どちらかといえば医療の専門職になる方たちは介護を低く見るような意識も現場ではなきにしもあらず。つまり、新しい医療と介護を連携して一体的に考えられる意識を持った人材を育成していくという基本が必要ではないかと思えます。そういう人材を集めているいろいろなオリエンテーションする場合、参考となると思うのは国際的な取組でWHOなんか言っているICF、日本語では国際生活機能分類という基本的な考えをもっと現場に徹底して、人材確保や人材育成のきちんとした計画や方針を出していくことが必要になると思えます。

(ゆかわ脳外科訪問看護ステーション愛所長 菊池委員代理 岩手県訪問看護ステーション協議会 平澤氏)

私も医療職人材確保対策についてです。現場ではすごく看護師不足が大きくて、特に退職した場合、病院の看護師さんたちは新卒でももちろん入ってくると思うのですが、訪問看護ステーション、在宅というのなかなか新卒が入らないという現状もある。それと、今現在、いろいろとやってくれているのはすごくうれしいのですが、中学生、高校生、将来の看護職というのもちろんですが、今現在がすごく人が足りない。本当にギリギリのところスタッフ頑張ってくれているという状況があるので、中学生、高校生、未来の看護職、医療職はもちろんなんですが、潜在看護師がいるはずなんです、中部圏域にも。そこのところを、ナースセンター等々と協力をして、中部圏域で働いていない看護師さんの掘り出しを是非ぜひ進めていってほしいなと思えます。

(遠野病院長 郷右近委員)

私も医療職の人材確保についてですが、セミナーを北上済生会病院でやられてたのは、かなり以前からでしょうか。そちらをお聞きしたいなど。北上だけでなく、花巻地区でもやられるようになったのは、非常にいいことかなと思っております。定員 10 名という設定がなぜ 10 名なのか。もっと大きく集めるような定員設定していく努力は必要かなと思っておりました。こういうセミナーに参加される高校生を増やすのもいいですが、そういった人たちがどの程度自分が希望している職種に進んでいるのかということも少しずつ把握できるようにしていった方が、セミナーをやる目的に合致するのかなと思いました。高校生だけでなく、中学生にも対象を広げていくということで、その辺も参加者をいっぱい集めるといふ算段を考えてもらいたいかなと思っております。

(中部病院長 遠藤委員)

私も医療人材のところなんですけど、数日前に助産師が不足しているという記事が岩手日報に載っていましたが、本当に県立病院の中でも今非常に深刻になっているということをお伝えします。北上済生会、総合花巻病院でこういった医療体験をしたということですが、県立病院はこれとまた別に、以前から職場体験という形で、昨年度高校生・中学生で数十名体験に来ております。私も必ず最初に話をしますが、体験に来る人たちは、皆目的を持ってくるんです。非常に意識が高いので、それがうまく伝わってくればいいなと思っています。岩手県のレベルでも、地域医療対策協議会の中で、まずは医療を知ってもらって、それから育てる。それからきちんとその職業についてもらって居ついてもらう。なかなか看護職、特に県立大などの看護科の卒業生が岩手県になかなか残ってくれないという問題もありますので、そういったところも含めて地域から県の方に発信するなり、いろいろなアクションを起こしてほしいなと思っています。

(岩手県獣医師会花巻支会長 菅原委員)

私どもは、保健所との交流につきましては、各市町と皆様にお世話になりながら、狂犬病予防に関する、簡単に言えば狂犬病予防接種についてやっているところです。どのくらいやっているか調べてみたところ、8割は超えております。100%はまだ無理だということで、それぞれ集合検査といいますか、市町の皆さんとやっていく場合と、各診療所に連れて来てもらう場合と両方でやっております。できるだけ増えるようお願いできればと思います。私ども年に 1 回しかやっていますが、動物とふれあいということでホームズの庭を借りて、子犬を連れてきて、そこでふれあいをするんですが、なかなか人が少なく、困っております。できれば学校の方にまわりたいが、なかなか小学校でも忙しいとかスケジュールでできないということで非常に苦慮しているところです。今後も狂犬病の予防事業と動物のふれあいもやっていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(花巻薬剤師会長 山田委員)

まず脳卒中予防の件ですが、普及活動ということで、スライドには 10 店舗とありましたが、花巻だけだと 4、5 件程度で行ったということで、のぼり等々はともかくとして、血圧手帳の配布等は来年度は全部の薬局で行えるような形を取ればいいかなと思っています。手帳を渡す場合にただ渡すのではなく、血圧の重要性などもう少し説明できる機会を持ちながら配布をしていきたいと思っています。また、岩手国体の件ですが、花巻の総合体育館に今回ドーピングブースを出ささせていただきました。結構利用者の手ごたえはあったかなと思います。ただ、国体は 1 年で終わってしまうわけで、1 年ぽっきりの話にならないように、若手薬剤師はスポーツファーマシストという資格を数人取得して、結構頑張っていましたので、できれば薬物乱用防止講座にも入れたいところです。しかし、危険ドラッグ等々の話も入れたりすると、ドーピングまで入れると非常に長い話になってしまうので、ドーピング等に関してはまた別な機会ですることとし、啓発活動は継続して行っていく

いと思っております。

(遠野歯科医師会長 田中委員)

毎年この協議会でもヘルスネットサポート会議でも、必ず血圧の話として血圧管理と減塩の話は必ず出るんですが、実際血圧管理に関しては、我々治療するとき、麻酔をするときに麻酔薬の中にエピネフリンという血圧を上げる成分が入っているものを一般的に使用している。患者に必ず普段の血圧を聞くようにしている。年配の方は結構自分の血圧を把握しているんですが、働き盛りの世代の方は自分の血圧が分からない方が非常に多いです。把握してないです。実際測ってみると非常に高い方がポツポツいたりする。当然、治療に来てますので、白衣性高血圧といって、緊張していて高くなることがあるんですが、軽い精神安定剤等を飲ませて次の日来てもらってから測っても高いという方がいます。そういった方に少し高いから内科に行って下げてもらわなきゃダメだよと話しても、「いや、俺、健康的には全く問題ないから必要ない。」と言ってなかなか行ってくれないです。そういったこともあるので、もう少しアピールをしっかりとすべきだと思います。それからアピールの問題に関して言えば、皆さん一生懸命寸劇のコンテストなどされていて、頭が下がる思いですが、こういう場に出ている方はあえて啓蒙する必要のない方ばかりではないかなと思います。ヘルスサポートなんかでも聞いていても、インターネットに流しているとか、伺いましたけども、それに関して、もともと関心がある方しかそういったものを見ないと思うんです。やはりもっと万人の目に触れるようなアピールの仕方、マスコミ等を使うとか、もっと広く啓蒙していかないと広まらないんじゃないかという気がいたしました。

(北上歯科医師会長 高橋委員)

地域医療構想とか地域包括ケアシステムは、保健所、県や市町村に御協力させていただくことになると思うが、こちらの方としては、訪問診療その他で協力することになると思う。当会とすれば、勉強会、講演会その他やってはいるが、もう少しどういった具合に、他にも関わるところがあるのかなといったことがいまいまいちよくわからないので、保健所の皆様や市役所の方々の話をお伺いしながら進めていければと、どのように協力できるのかなと思っています。

(花巻市歯科医師会長 畠山委員)

話が関連するかもしれませんが、地域包括ケアに関することについて。3市1町それぞれ状況に応じてシステムづくりをし、努力をして様々な会議等が開かれているようですが、私の勉強不足か分かりませんが、どうも県の役割といいますか、県がこれはやりますよということが少し明確でないというか、分からない。それで、どのような関わりなのか、この表を見てもちょっと分からないところがあるので、そこがはっきりしているのであれば、教えていただきたいと思っています。

(遠野医師会長 千葉委員)

まずひとつは、健診について地域推進委員の方々は現場でとても頑張ってらっしゃる。医師会としては、いらっしゃった方は治療対象になりますが、こちらから働きかけがなかなか進まないところがあります。先ほど言った、結局仕事が忙しくて抜けられないとか、そういった方がたくさんだと思います。若い方の受診率ということで、企業側にももう少し、健診の時間を積極的に働きかけて、時間を使って病院に行っていただくようなタイミング、あるいは動機付けをしていただきたいと思っておりますので、それに関して取り組みたいと思います。

あと、地域包括ケアですが、私もいろいろな会議に出ている、遠野は一応中部医療圏ですが、どうしても山を越えないとどこにも出られないところのため、遠野地域ということで、遠野市の中でも包括ケアを作っていかなければならないかなと思っています。各市内の

医院と病院と掛け持ちしている方が、内科はこっちで外科はこっちとか、日によってはこっちとか似たような薬を各医院でもらっていて、掛け持ちしている、それから、病院に脳外科、循環器の医師が居りませんので、どうしてもその患者を中部病院や中央病院等にも送ることもあります。けれども、院長先生も新しく変わりましたので、そういった方たちを包括していただき、他の病院との連携をもう少し密にし、できるだけ遠野市内でもうちょっと簡潔な地域包括ケアを組んでいきたいなと希望していますのでよろしく願います。

(北上医師会長 根本委員)

地域医療構想ですが、急性期・回復期・慢性期、そして在宅医療と、何度か説明を聞かせていただいています。これは医療といっても高齢者にスポットを当てた医療だと思います。若年者には全く当てはまらないと思います。もちろん高齢者が医療需要が一番高いわけですが、先ほど遠藤委員からもお話がありましたけれども、助産師の関係する、やはり安心して妊娠出産ができる産科医療と、産科と小児科をつなぐ周産期医療、小児医療、思春期医療、労働年齢の医療、あるいは子育て支援と関係した医療など、高齢者以外にもいろいろあるところがあると思いますので、そちらのほうの高齢者以外の医療構想についてもある程度御説明いただければと思います。

(花巻市医師会長 三浦委員)

脳卒中の予防について、お伝えしたいと思います。家庭血圧を、自分の血圧を自分で知るということは、非常に自分の健康を守る意味で意識が高くなる。大迫では家庭血圧を長い間測定していて、去年の秋でもう30年になります。去年の秋、記念大会を行ったんですが、大迫の方々は、自分の血圧は質問すると、朝はこのくらいだった、夕方はこのくらいだったと、自分で自分の血圧を言えるくらいになっているということでした。自分の血圧を家庭血圧で測って知っているということは、そういうことをやっている自分の習慣病予防にも気を配ってくるというメリットが出てくる。もし、できるのであれば、各家庭に自動血圧計を用意させて自分の血圧を知ることから脳卒中予防にもっていきけるのではないかと考えておりました。

(西和賀町長 細井委員代理 佐々木健康福祉課長)

まず最初に、中部保健所の医療提供体制について、人材確保ですが、私どもの町でも病院を中心に、高校生を相手に人材確保ということで、専門職が説明して、このような責任とやりがいがあるんだという話をしてきた経緯があります。ただやはり、中学校の段階から、医師と看護師以外の職があるということをつかれないということがありました。ですので、ここにOT、PT、臨床工学技師などといった職種も出てきておりますが、やはり病院の職員の立場から、やりがいというところを示していただけたらいいのではないかと思います。当町では、意外と看護師の進路を希望する方が結構多かったということがあります。ただ奨学金を義務履行の部分と教育委員会のほうの返済していくといった部分と2つあるんですが、なかなか義務履行の方は応募しないという今の現状です。そういった部分と、あと介護施設のほうの看護師というのが、なかなか若い段階では就職しないというような傾向があるかなと思っていますし、OBの定年退職した方たちを介護施設のほうでネットワークを組んでやれたらいいなということも考えていました。あとは少し聞いたかったんですが、医療機関の医療安全対策とか、立入検査というのは、中部地区の中で申し上げれば、病院は毎年ですが、診療所はどれくらいの割合で回るようなことなんでしょうか。

また、脳卒中のほうですが、これは特定健診、町としても国保・後期高齢とかそういった形で保険者になっているわけで、この受診率というのは、国保が広域化される30年から国保税に非常に影響してくるといわれています。ただ、町の保健指導の中では、国保だけ

ではないという感じがします。当然、後期高齢者もそうですが、今、健康管理は保険者の責任になっています。町としては、町民全体なので、先ほど遠野市ともお話ししたんですが、社会保険、共済も含めてですが、そういったデータ管理を市町村に返してもらえりような県の取組はできないものかということです。昔は、町が全体の健康管理をできたわけですが、今は保険者が健康診断をして管理していく形になっています。ただ、町の脳卒中予防の対策などを示していく時には、我町全体のデータはどうなっているのかが一番必要だと思しますので、保険者ごとの働きかけを県全体で社会保険事業所、そういったところからもデータを共有できるような、そういったシステムができないのかなと思った次第です。

あと、国体については、私どもは会場にならなかったんですが、北上市や花巻市が非常にきめ細かい形で食品体制を作っていたかと思っておりますので、衛生対策については良かったなと思ったところです。

(遠野市長 本田委員代理 菊池健康福祉部長)

まず最初に、医療職人材確保対策ですが、遠野市で中学校まで対象を下げてやった際にも、低迷で、なんとなくがっかりするような内容でした。こういうような話を県立遠野病院の郷右近院長にも話した際に、是非小学校にも広げてもいいのではないか、あるいは小学校の子を持つ親まで広げてもいいのではないかとお示唆をいただきました。これにつきましては、私どもも、そのように感じて、教育委員会との調整や、市町村の実際やるべきことは協力していきたいと思っておりますので、もし、次の機会がありましたら、小学校にも広げてはいかがかなと感じていました。

次に、地域医療構想の部分ですが、本日ケアマネジャーと遠野市の研修会がありまして、先ほど北上市社協からも、今後の部分、総合支援事業であるとか、生活支援コーディネーターの部分であるとか、地域に根ざした健康づくりが求められております。その際にケアマネジャーから出た話の中では、いわゆる在宅での看取り、あるいは在宅医療での医療側の体制、これらについては、是非ここにも在宅医療等の充実・体制整備は、県が中心になってやるとおっしゃっておりますので、医療と介護の連携の部分につきましては、現在でも少しずつ進んでおりますが、この部分につきましても、市としても一生懸命頑張りたいと思っておりますので、在宅医療等の充実の部分につきましても進めていただきたいと思っております。

それから、西和賀町からも出ましたが、遠野市で健康ポイント事業といいまして、いわゆる俗にいうインセンティブ事業に組んでいるわけですが、これはスポーツ庁と内閣府の地方創生過疎化交付金事業を取り入れてやっております。この部分につきましては、先ほどあったように、国保、政府管掌健保、共済、後期高齢者連合などの情報をもらうのに大変苦労しておりますが、これらの情報ももらって、今いろいろ分析をしております。医療費がここ数年伸びが縮小されてきているということで、いい傾向にあるなと思っております。これらの事業について、先ほど保健推進委員の宮守委員からお話ありましたが、特定健診でこの健康ポイント事業を取り入れて、健診を受けたら何ポイント、地元のポイントですね、これをあげるというようなことで、一生懸命健診率を上げようとしております。ただ、健康ポイントで健診率が上がったかどうかは分かりませんが、いわゆる誘いあう仕組みができて、これは良かったなと思っております。そういったことを今後も進めてまいりますので、ぜひ保健所にはそういったところで協力いただきたいと思っております。よろしくお祈いします。

(花巻市長 上田委員)

保健所運営協議会ということで、これは地域保健法第 11 条に基づく保健所の運営に関する協議会という趣旨だと理解しております。その中で、先ほど柳原所長から開催時期を変えると、開催時期を変えることによって保健所の事業計画、あるいは事業報告についての

説明ができるようになるというお話がございました。これはまさにすばらしいというか、その方向でやっていただくというのはよろしいのではないかなと思った次第です。といいますのも、今回、保健所の方からの御説明、個別のことについてお話を何点か絞って御報告いただきました。このように絞っていただくと、中身が分かりやすいので、非常にいंदらるうなと思えますけれども、一方、その保健所の全体の活動についての概要が我々分からない中で、その保健所に運営についてお願いすることを全部捕まえているかどうかがよくわからない部分があります。ですので、そこを踏まえて、先ほど柳原所長がおっしゃったような、全体についての説明があるということが方向としては正しいのではないかなと感じた次第です。今日はそういう意味で論点を絞って御説明いただいた中で、出席者の方からはそれを踏まえた上で保健所に対する御要望等が出たわけでありまして、これは非常にすばらしいなと思って聞いていた次第です。

私どもの方として、保健所に今具体的に運営について意見申し上げるということはないんですが、ひとつ、医療職人の人材確保、こういうことも保健所で取り組まれているということは少し驚いたんですが、一方このようなことは大切なことでもありますので、やっていただくというのは大変いいなと思った次第です。それに関連しまして、我々今関心を持っているのは、岩手県内の看護学校、専門学校もございますが、看護大学が今まで県立大学しかなかったのが、今年の4月から岩手医大の看護学部が出来る。そしてその岩手保健医療大学が今度出来るということになります。このような4年制の看護大学ができるということが、今後の岩手県内における看護師の確保、先ほど卒業生、岩手県立大学につきましては岩手県内に就職されないで他に行くというお話がありましたが、それも含めて今後いったいどのようになるという見込みがあるのか。要するに県内で確保できるのか、あるいはこういう方たちはどちらかという県外に行くという傾向が強くなるのか。といった見方と、もし情報があればいいのですが、新しい岩手医大の看護学部、岩手保健医療大学について、今の志願者の状況、要するに定員が充足されるという状況になっているのかどうか。もし情報が分かれば教えていただければ大変ありがたいなと思います。

(北上市長 高橋議長)

北上市からはひとつ紹介をさせていただきと思います。医療人材の確保について、民間団体の青年会議所が取り組んでいる「鬼っジョブ～北上おしごとパーク～」という事業がありまして、小学校高学年を400人の定員で募集をして、その子ども達に実際に仕事を体験していただき、仮想ですが、お金を稼いでいただいて、それを使うといったゲーム感覚の仕事体験事業を行っています。その中で、医療、介護のお仕事もありまして、そこで実際に先生の協力も得て、内視鏡を自分で操作したり、そういった体験もしてもらって盛況であります。少なくとも、小学生のうちから仕事の偏見のようなものを取り払うという効果は十分にあるのではないかなと、今日話をお伺いして感じていたところでありまして、こういったことが広められればいいのではないかなと、今日話をお伺いして感じていたところでありまして、ちなみに400人の定員のところ、募集を始めて1週間程度で埋まってしまうというような盛況でありますので、ぜひ開催の様子を皆さん方には見ていただければいいのではないかなと、思っております。

それでは、各委員の皆さんがたから御発言をいただきましたので、それにお答えするような形で、事務局からコメントをいただければと思います。

(中沢保健課長)

脳卒中予防対策等、保健事業に関して御協力を頂戴いたしまして、大変ありがとうございます。まず健診率の話をご頂戴したところでございますが、先ほど、ポイント制のお話もございましたけれども、各市町村さんでは、受診率を上げようという御苦勞をなさっているところでございます。特定健診については、70%目標になっているわけですが、50%に

届かない状況、あるいはがん検診についても50%目標に対して20%、30%という状況でございます。いかにして受診率を上げるかというところですが、先ほど脳卒中予防対策についてはお話しましたが、健診を受けた方の中にも血圧が高い方がおられるということで、それを治療にどう結びつけるかというところに重点をおいて、今ワーキンググループで各市町村さんや薬剤師さん等と一緒に検診を進めているところです。若い方の健診率を上げる部分についても、このワーキンググループの中で検討していければと考えているところです。それから、社会保険のお話ございましたが、おっしゃるとおりだと思います。当保健所でも健診率を評価をする場合には国保だけではなく、協会健保さんが実施する事業所さんの健診率がどうなっているのかということも併せて評価していかなければならないということで、平成23年からは協会健保の事業所さんの健診率も含めて評価しているところでございます。西和賀町さんの御提案のあった個々のデータの管理については、今どこまでできるかというところは、これからの検討課題とさせていただければと思っております。

周産期医療についてのお尋ねがございましたが、本年度から県の中で周産期医療の計画づくりということで、見直しが始まっております。県全体でどういった周産期医療体制に持っていけばいいのかということも県庁のレベルで検討しているところですので、その中で人材確保等も含めて計画が出されるのではないかと考えております。

遠野歯科医師会会長様からございました、減塩と申しますか、脳卒中对策についてでございます。北上市食生活改善推進員協議会様や遠野市保健推進員協議会様からも本当にありがたいお言葉を頂戴しました。確かに「突撃隣の味噌汁事業」ではだいぶ効果をあげているという数字は出ているところですが、平成24年の調査では、岩手県は塩分摂取量が全国より1.6グラム多く、全国一高い状況になっています。そういった状況をみると、更に一生懸命取り組んでいかなければならないと考えております。保健推進委員さんや食生活改善推進員さんからお話は、本当にありがたく思っております。一般の方に関心を持ってもらうため、寸劇や広報媒体、あるいはチラシなどを作って県でPRしておりますけれども、本日お集まりの皆様方からもいろいろな機会を捉えて、PRさせていただきたいと考えております。

血圧手帳ですが、薬剤師会様、本当にありがたうございます。今年度キャンペーンを実施しておりますので、来年度は店舗数もさらに拡大して進めていきたいと考えております。こちらはぜひお願いしたいと考えております。

今、来年度の予算要求時期なのですが、必要なものは引き続き実施していきたいと考えております。「突撃味噌汁事業」については、そのままでは難しいかもしれませんが、食生活改善推進員協議会様の今までのノウハウを生かせるような形で事業実施できないかということで考えているところです。寸劇しかりでございます。

ノロウイルスワクチンにつきましては、今手元に資料を持ち合わせておりません。今年度非常にノロウイルスが流行いたしまして、確かにワクチンがあれば大変助かるわけですが、保健所では、感染症が発生した場合、集団というか感染拡大をいかに防止するかというところに力点を置いているところです。ノロウイルスワクチンにつきましては、今後情報収集していきたいと考えております。

(平賀管理福祉課長)

医療職人材確保について何点か御質問等いただきましたので、分かるものについて御回答したいと思います。まず、済生会病院さんでは以前からやっていたのかという御質問がございました。こちらは済生会病院さんに限らずどの病院さんでも独自にやられているものがあるかと思いますが、済生会さんでも以前からやられていたわけです。中部保健所としても関わりたい、一緒にやりたいということでお声をかけまして、当保健所が関わり始めたのが、平成26年度からということでございます。当日は合同でやるのですが、役割分担をして、周知ですとか、募集、参加人員調整ですとか、相互に協力しながらやって

ります。定員 10 名というのは、済生会病院さんの御希望ということで、キャパシティとい
いますか、実際現場にも入るということで、10 名でやりたいということでした。
その後どのように進路に繋がるかということについては、確かに私どももそういった部分
の情報が取れば、いろいろ政策を実施するにおいてとても有用かなと思っております。
必要性は十分あるかと思えます。しかしなにぶん、1 回参加した方について、追跡調査す
るといことがどの程度可能かというところで、何年か後にたとえばアンケートしますと
いうようなことで了解を得られるのかどうか、そこも含めて今後の検討課題とさせていた
だきたいと思えます。中学生についても、実は遠野市さんのほうからありましたが、昨年
度と一昨年度、中学生を対象に、遠野市内でやったことがございます。この実施方法は現
役の医大生を呼んで、自分の医大進学や今やっていることについて語っていただくとい
うもので、遠野市内の 3 つの中学校を回って募集活動を行いました。しかし、なにぶん参加
者が、お話があったとおりに低迷しておりまして、昨年度も特にそうで、せっかくいらして
いただいて、準備もしていただいた医大生の方に本当に気の毒なことをしてしまったため、
少しやり方を見直そうかということで、来年度はもっと別な形で実施したいと考えており
ます。

立入検査について御質問がありました。病院は毎年ですが、診療所については当保健所
はおおむね 5 年に一度のスパンで回らせていただいております。

(柳原保健所長)

何点か御質問いただきました。地域医療構想と包括ケアの関係で、特に包括ケアシス
テムについて、県の役割が明確ではないというお話いただきました。今日の報告にもさせて
いただいたとおり、中部保健所及び花巻の保健福祉環境センターには介護保険の権限はご
ざいませぬ。よって、奥州の本局で介護保険業務を一括して行っているということになり
ます。よって包括ケアについては本局が行い、医療については保健所で行う、そうした形
になっています。それを放置するわけにはいかないので、今年、来年度以降ですが、そう
した介護と医療の連携を図るための組織を設置させていただいて、市町村等々と情報交換
をさせていただいた上で、一体的に進めさせていただきたいというものでございます。

看護人材の関係で、看護大学の開設の影響でありますとか、その志願状況という話がご
ざいました。県全体の看護人材の養成確保については、県全体の需給計画といったものを
何年かに 1 度見直しをして策定しております。現在の計画には新たに開設される看護大学
の影響をたぶん見込んでいないのではないのかと思えます。それに伴って、次の改定の際
にはこうした影響を報告して行うのではないかと思います。現在の志願状況については、
私ども情報を持ち合わせておりませぬので、御報告することができません。

働き盛りの血圧対策につきまして、いろいろ御指摘いただきました。働き盛りの方々、
事業所に勤めているわけですので、事業所にどう働きかけていくかといったことは大変な
課題だと思います。中部管内でも 5,000~6,000 の事業所がある中で、どう対応していくか
と。個別に健康教室の出前をして対応しているところはあるのですが、それだけでは、と
てもじゃないが対応しきれないということで、これまでも取り組んで参りましたが、来年
度以降は、商工会さん、工業クラブさん等の職域関係団体さんに働きかけて、組織的な取
組みを展開していければと思っているところです。

以上、総括的な話をさせていただきました。

(議長)

それでは、事務局からのコメントを受けて、さらに御発言のある方は承りたいと思いま
すが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようですので、「(1) 平成 28 年度中部保健所の主な事業の取組等について」の質疑
は以上で終わりたいと思えます。

(2) その他

議長

「(2) その他」であります。事務局から何かございますでしょうか。

(平賀課長)

特にございません。

議長

委員の方々からその他何かございますでしょうか。

ないようですので、議事については以上で終わらせていただきたいと思います。事務局にマイクをお渡しします。

5 その他

(千葉次長)

ありがとうございました。次第の「5その他」になります、事務局からお願いします。

(平賀管理福祉課長)

本協議会の委員の任期についてでございます。現在の委員の任期は、平成 29 年 3 月 31 日までとなっております。各市長及び町長、医療関係団体の会長、及び病院の院長の皆様におかれましては、来年度以降も委員就任をお願いしたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。また、介護関係施設の施設長、並びに学識経験者の皆様、消防署長、警察署長の皆様におかれましては、各地域の輪番でお願いしております。後日改めて議員の委嘱について御連絡等させていただきますので、よろしくをお願いいたします。なお、冒頭の柳原所長挨拶でも申し上げましたが、来年度の保健所運営協議会につきましては、来年度前半に開催し、平成 28 年度事業実績及び平成 29 年度業務方針等を御協議いただく予定としております。

6 閉会 (千葉次長)

委員の方から御意見等ございますでしょうか。ないようですので、以上をもちまして岩手県中部保健所運営協議会を閉会とさせていただきます。

なお、本日の協議結果につきましては、後日県のホームページに掲載いたしますので、お知らせをいたします。委員の皆様、本日は大変ありがとうございました。